川東校区コミュニティ協議会(香川県)

香川県から参りました川東校区自主防犯推進協議会 の会長の白川でございます。隣にいるのが事務局長の 大野です。よろしくお願いします。

それでは、ただいまから川東校区コミュニティ協議会に参画している川東校区コミュニティ防犯推進協議会、セーフティポリス防犯隊による万引き防止パトロールの取り組みについて活動発表を行います。





活動地域の紹介

四国の香川県は全国の最小面積で人口が約100万人、私たちの川東校区は県都で人口約42万人の高松市のJR高松駅から10キロあまり内陸に位置する人口約8,000人、約3,000世帯が暮らす農村地帯です。この風景が川東校区の中心地域です。市役所出先の支所を中心に、校区コミュニティ協議会の活動拠点となるコミュニティセンターや小学校、そして今回活動発表する万引き防止パ



トロールの取り組みの活動現場でもあるスーパーの3店があります。前方に見える山は阿讃山地で、 山を越えれば徳島県です。





団体概要

続いて、川東校区コミュニティ協議会の概要について説明いたします。コミュニティ協議会は高松市における地域活動の制度で、連合自治会を中心に、衛生組合、婦人会、老人会、学校、PTA、体育協会、NPOなど川東校区内だけでも50以上の団体、個人が集まって結成したボランティア団体で、住民

自らが地域の福祉、環境保全、防災、防犯や暮らし充実 など多彩な地域課題を解決するために結成した組織です。 私たちは「キラリと光る個性的なまち『川東』をめざし て」をスローガンに活動に取り組んでいます。その活動 の一部を紹介します。



これは福祉活動となっております。共同募金、敬老会事業、その他もろもろございますが、この 2 つが代表的なものです。





続きまして、環境・安全活動もしております。美化清掃活動、防災訓練、その他もございます。 続きまして、地域のふれあい活動、祭り事業、これはその一部ですけれども、1つは健康相談には 地元の医者とか看護師さんとかが来ましていろんなことをやっております。また、バザーもどんどん やっております。

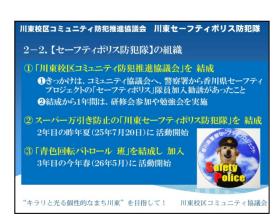




続きまして、これは文化財の保存伝承活動、これは農村歌舞伎の保存会などがありまして定期的に 公演しております。この保存会の伝承活動は、日本ユネスコ協会連盟が日本の文化・自然を守るため に推進しているプロジェクト未来遺産運動というのがありますが、農村歌舞伎の分野では日本で初め てその対象に選ばれてユネスコ協会の支援を受けました。その他、いろんなことをやっております。

活動(事業)内容・特徴

続いて、自主防犯活動を担っているセーフティポリス防犯隊の組織について説明いたします。セーフティポリス防犯隊は、川東校区の自主防犯活動を統括する川東コミュニティ防犯推進協議会の会員の有志によって結成されております。会員数は発足当初は約60名でしたが、現在は約140名です。防犯推進協議会結成のきっかけは、コミュニティ協議会へ警察から、香川県警察セーフティプロジェクトのセーフティポリス隊員加入の勧誘があったことでした。コミュニティ協議会で加入者を募集し、

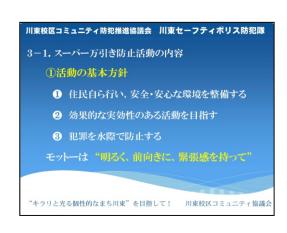


結成後の1年間は研修会への参加や、防犯の勉強会などを実施していました。結成2年目の昨年末に防犯推進協議会で志願者を募って、川東セーフティポリス防犯隊を結成して活動を開始しました。そして3年目の今年になって、同じく志願者を募って、青色防犯パトロールの班を結成しました。

写真は香川県警察セーフティプロジェクトのセーフティポリスのバッジで、モデルは、香川県警察の元警察犬「きな子」です。これは香川県警が始めた制度で、全員このバッジを付けております。

それでは、スーパーでの万引き防止活動について説明いたします。7項目に分かれております。まず1点目は活動の基本方針、2点目が地域の防犯上の課題把握、3点目が組織づくりの経緯、4点目は活動開始の手順、5点目が活動継続の留意点、6点目が少年の非行防止、最後にボランティアによる活動のメリットについて説明いたします。

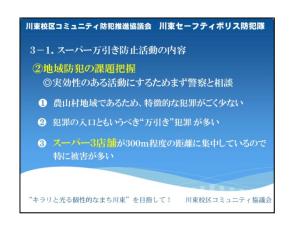




まず、1項目目の活動の基本方針ですが、住民自ら行動して安全・安心な環境をつくろうというのが1つ。2つ目が、やるからには効果的で実効性のある活動をやろう。3つ目が犯罪を水際で防止するという以上の3点を基本方針に掲げて、モットーは「明るく、前向きに、緊張感を持ってやろう」ということで取り組んでおります。

2項目目といたしまして、地域の防犯上の課題の把握ですが、やるからにはとにかく実効性のある活動をやろうということで、情報を一番知っている警察に相談いたしました。その結果わかったことは、農山村地域であるため特徴的な犯罪はごく少ないということがわかりました。しかし、犯罪の入り口とも言うべき万引きが多いのです。それはなぜか。それはスーパー3店舗が300メートル程度の

ところに集中しているから万引きが多いということです。それならば、スーパーの万引き防止活動を やろうということになりました。そのスーパー3店舗を紹介します。向かって左側に約1,200坪、これは売り場面積です。あとは300坪弱ですけれども、特にこの1,200坪の店舗で万引きが多発します。





内容を少し紹介しますと、左側の写真は、売り出し日ではあったのですが、昼前とか夕方にはこのように混雑した状態になります。ここで万引きが多発します。右側の写真は、休憩場所ですが、ここが少年のたまり場になっておりまして、ここで騒ぐ、走る、食べ散らかす、そして隙を見て万引きするという状態が続いておりました。 3項目目の組織づくりの経緯ですが、メンバーのうち、

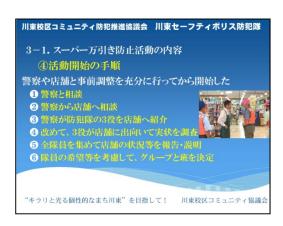
3項目目の組織づくりの経緯ですが、メンバーのうち、 スーパーを日常的に利用している人たちなどから志願者 を募って組織化いたしました。当初は本部と3グループ、



6班体制、36名でしたが、現在は本部と4グループ、9班体制、69名で活動しています。

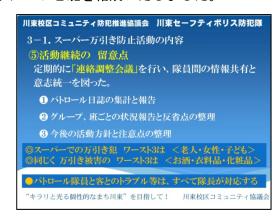
4項目目といたしまして活動開始の手順ですが、とにかく警察や店舗と事前調整を十分に行ってから開始しました。手順は6分野に分かれております。





最初に警察へ相談して、情報把握をしておりました。その結果、やろうということになりまして、 警察から店舗へ相談していただきました。店のほうから「よろしくお願いします」という確認を取っ てから、われわれ防犯隊を店舗へ紹介していただきました。改めてその後、三役が店へ出向きまして、 実状を調査いたしました。報告書を作り、全隊員を集めて店舗の状況などを報告し、説明いたしました。その手続きが済んだ上で隊員の希望などを考慮してグループと班を結成いたしました。

5項目目の活動継続の留意点ですが、定期的に連絡調整作業を行って、隊員間の情報共有と意思統一を図っております。3つあります。1つは、全員でパトロールの日誌をつけていただいておりますので、その日誌の集計と報告をいたします。2つ目が、グループと班ごとの状況報告とその反省点も整理いたします。それを踏まえた上で、今後の活動方針と注意点を整理いたします。この連絡調整会議をだいたい2カ月に1回、結成から1年間は7回開催いたしました。その中での課題や普段のパト



ロールで浮かび上がったことをまとめますと、まず1つは、スーパーでの万引き犯のワースト3は老人と女性と子供ということがわかりました。2つ目の要点としては、万引き被害のワースト3は、お酒と衣料品と化粧品ということです。もう1つ、もしパトロール隊員とお客などとのトラブルがあったときは、すべて隊長の私が対応することに決めております。

続いて6項目目の少年非行防止活動ですが、2つございます。1つは、青色防犯パトロールがあります。これは青少年健全育成連絡協議会を主体として青パト班を結成して、加入しております。この活動の主眼は、スーパーでの少年非行防止を中心に実施しております。





少年非行防止の活動の2つ目といたしまして、中学校との連携があります。1つは情報の交換と共有。これは会長の私と副会長がたびたび学校へ出向きまして、中学校の教頭先生とか指導主事の先生とよく情報交換をいたします。2つ目がオープンスクールへの参加。1週間の期間で年3回実施されますが、その際に学校訪問をします。こういうベストや帽子を着て、だいたい4名から6名ぐらいで行きます。これは文化祭のときの写真ですが、一般の日にも参加いたします。3つ目としては、登下校時の見守りがあります。これは始業式の登校時とか、テストがあるときなどの一斉登下校時、このときにまた5名から6名で子供の見守りをし、顔をよく覚えてもらうということをしております。

最後にボランティア活動ならではのメリットについて、まず買い物客からの効果的な情報提供があります。2つ目は、やはり相手と同じ地域住民ですから、公正な立場で万引き犯と向き合えます。警察とか専門の方が言えないことでも、われわれは言えますし、われわれのほうが相手も言いにくいよ

うです。これがメリットだと思っております。

また、万引き犯にとって地域住民に犯行を見られる のが一番嫌だということがわかりました。以上がメリ ットではないかと思っております。

その他の川東校区のコミュニティ防犯推進協議会の活動を紹介したいと思います。これは歌舞伎公演舞台での防犯キャンペーンですが、舞台の中央少し左に警察官がおります。これは現役の警察官です。化粧もちゃんとして出演しています。横断幕も自分達で作って



います。春と秋、2回公演を実施しております。次は、同じく歌舞伎公演の会場での、警察がやっている防犯キャンペーンです。これも年に2回やっています。



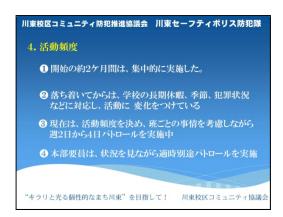


次が、地元の祭りでの自主防犯パトロール。これはスーパーのメンバーとは別の部隊を組んで 30 名ほどで夏祭りの警備をしております。この写真はスーパーでの防犯キャンペーンです。自前ののぼりを作っているのですが、こういう形で年に何回かキャペーンをやっています。



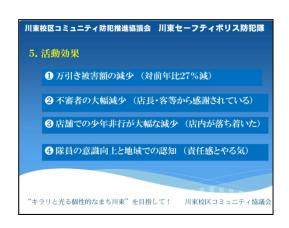


活動の頻度ですが、開始の2カ月間は集中的に実施しました。その後、不審者がいなくなり、店が落ち着いてからは学校の長期休暇とか、季節、犯罪状況などに対応して活動に変化をつけています。現在は活動頻度を決めて、班ごとの事情を考慮しながら、週2日から4日ほどパトロールを継続しています。なお本部要員は、状況を見ながら適時別途パトロールを実施しています。



活動効果

活動の効果ですが、万引き被害額の減少。半期の棚卸しで、対前年比 27%減の結果が出ました。2つ目として不審者が大幅に減少しました。これは店長やお客様から非常に感謝されています。3つ目としまして、非行少年が非常に減りました。店内が落ち着いたと、店員さんが仕事に専念できるということで感謝されています。最後に隊員の意識の向上です。地域の方からこの活動が認知され、これが隊員の責任感、やる気につながっているのではないかと思います。



今後の課題

今後の課題ですが、ボランティアによる活動の継続。とにかく継続は力です。それと、より効果的な予防策と PR 活動、他校区の防犯組織との連携。我が校区の近辺に小学校区が2つありますが、そこではまだ万引き防止活動ができていません。このような組織との連携が、課題です。最後に万引き常習者、ベテランの方がいます。なかなかこれが難しいです。これにいま取り組んでいるところでございます。





以上をもちまして、川東校区コミュニティ協議会による川東校区コミュニティ防犯推進協議会、川東セーフティポリス防犯隊の万引き防止パトロール活動についての発表を終わります。ご清聴ありが とうございました。

質疑応答

●質問 先ほど例えば店舗の話について、全隊員を集めて会議を行ったり、写真を見せていただいたら、すごく皆さん、集まりが良かったり、モチベーション、やる気が高いと感じました。やる気の高さ、集まりの良さの秘訣などがありましたら教えていただきたいと思います。先ほど結果がやる気につながっているというのがありましたが、それも含めて、ほかにもこういう工夫をしているといった点がありましたらお願いいたします。

〇回答 私が思っているのは、やはりこれは非常にやりにくいパトロールですが、なぜみんながやる 気になっているかと言うと、県警に登録しているという、セーフティポリスという制度があったから だと私は思っております。これはたまたま知ったのですが、これは香川県警察独自の制度らしいので すが、やはりこのバッジがあるということ、ポリスという名前があるからやれました。

発表でもありましたが、始めたときは、それこそみんな万引きなんかしたこともないという方ばっかりですから、実態にびっくりしました。それがある意味で緊張感というか、責任感というか、それが結果的にだんだん積み重なっていきました。嫌だという人は誰もいません。とにかくやろうやろうという方たちで、いろんな形、レベルはあるのですが、増えるばかりでやめる人はいません。内容が内容ですから非常に緊張感がある。面白いと言うと、言い方が悪いですけど、ちょっと違った世界のパトロールですから、いま非常にやる気は継続しています。

●質問 店から協賛金や支援金とかそういう財政的な支援はあるのでしょうか。

○回答 店からは全くありません。店のほうはノータッチです。全くいただきません。活動上の財政的な問題については、資金源が4つあります。1つは、高松の制度でコミュニティ協議会という制度があります。高松市は合併して人口42万の市なのですが、44の地区に分けて、全市で44のコミュニティ協議会ができています。そのコミュニティ協議会という制度が非常に充実しています。

防犯活動に関しますと、まず地域でコミュニティ協議会の組織の中で防犯活動、組織を形成すると 10 万円いただけます。もう1つ、青色回転パトロールを始めるとまた 10 万円いただける。あとはスポットで支給します。

2つ目は、またコミュニティの制度ですが、市が交付金もやっていて、コミュニティ協議会に交付金をくれます。その中で、コミュニティの防犯組織も助成金を数万いただいています。

3つ目が、それでも足りないときは、コミュニティ協議会本体からいただけます。例えばスポット的に横断幕を作ったとか、必要であれば数万円いただけます。最後にうちの会は会費制になっています。これは私の考えですが、自腹を切って会員になる。そしてボランティアをやる。

よく皆さんご存じだと思うのですが、会を認めていただける3要素があります。会名がある。会則がある。役員名簿がある。これは絶対条件ですが、実は4つ目、会費を取っているというのも条件です。これも私の強い思いですが、何百円の会費でも、会費を取ってセーフティポリスに登録すると、身銭を切っているのだから、やらないわけにいきません。そこが試金石になります。だから資金源は4つです。

私の方から追加での説明ですが、こういうのはどうなのかなと思っている方もおられるかもしれませんが、私が隊員に言っているのは、例えば捕まった人がいます。注意することもよくあります。そのときに、店員の方は呼ぶなと言っています。というのは、店員の方は自分の目で見て、100%間違いないという人でなかったら声を掛けてはいけないとなっているのです。だから、あの人が見たからと言って店員を呼んでも来ません。盗ったということを認めてから店員を呼ぶというふうにしなければ、困るのは店なのです。

それともう1つは、警察から話に行っていただいたことを言いましたが、われわれが直接行っても、 店のほうはお客で苦労していますから、「そうですか」とはなかなか言いません。やはりそこは一切店 には迷惑かけません。お金も何も要りません、物も要りませんという説明をして、それならというこ とで続いています。